

次世代シニアと 現在形シニア

その意識と行動

NEXT
OLD



NEW
OLD

◎2020年を過ぎる頃から現在の50代は、65歳以上の高齢者の仲間入りをし始めます。今の50代が高齢者の仲間入りをすると超高齢社会はどのように変わるのでしょうか？
また、高齢者にとつての幸せや生きがいとは、何なのでしょう？

▼公益財団法人ハイライフ研究所では、この先の超高齢社会を見据えた研究を行う一環として50代から70代前半男女の生活行動、生活意識調査を実施いたしました。
(調査概要を参照)。

▼ここでは、その調査結果の一部を連載コラムとしてご紹介いたします。

「次世代シニア(50代)」と「現在形シニア(60代後半から70代前半)」の年代間比較、男女間比較、ときにそのハザマとなる60代前半の特徴なども織り込みながら、それぞれの意識や行動をお伝えいたします。

▼また、「仮説的」な読み解きや、「一生活者」として感じた生きるためのヒントなども添えていきたいと考えていますので、ぜひ「一読下さい」。

公益財団法人ハイライフ研究所

<ハイライフ研究所「次世代高齢者調査」調査概要>

①調査対象 東京30km圏に居住する満51歳～75歳の男女

②標本数(有効回収数)500 51～55歳・56～60歳・61～65歳・66～70歳・71～75歳 男女計各100

③標本抽出法 エリアサンプリング法 ④調査方法 留置法(訪問調査) ⑤調査時期 平成28年10月～11月

次世代シニアと 現在形シニア

その意識と行動

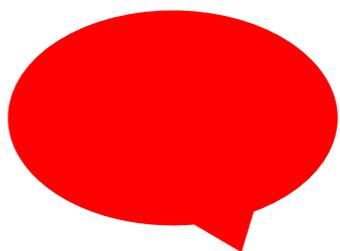
NEXT
OLD



NEW
OLD

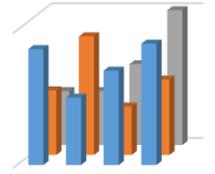
第五回

「家族・夫婦」に
ついて、気になる
二・三の事柄。



第五回

「家族・夫婦」について、 気になる二・三の事柄。



◇◆調査対象・言葉の定義◆◇

次世代シニア(51歳から60歳)

現在形シニア(66歳から75歳)

- 日本の**世帯主**の**41%**は65歳以上。50歳以上となると**68%**。
- 毎日の**家事**は女性まかせ。男性は週数回のゴミだし、買物。
- 夫が妻を頼りにする**ほどには、**妻は夫を頼りに**感じていない。
- 妻を頼りに**している程には妻に頼られてないという**夫の自覚**。
- 夫婦一緒の外出や会話の多さ。その**認識にギャップ**あり。
- 夫婦間の**家事分担**でも、家事はすべて(ほとんど)妻頼み。
- 老後のこと、先のこと**。話し合う次世代シニア夫婦は約半数。
- 在宅か施設介護**か、わからない。でも対処の準備は怠らず。
- 家族の悩みや心配事は、やっぱり**健康・病気**と子供の**将来**。
- 以上、**気になる二・三の事柄**は「**家事**」「**夫婦**」「**介護・健康**」でした。



第五回「家族・夫婦」について。気になる二・三の事柄。

1. 年齢階級別世帯主の現況（世帯数・世帯構造）

●日本の世帯主の41%は65歳以上。50歳以上となると68%。

連載第五回目は「家族」特に「夫婦」についてみていきます。その前に、「家族」と縁の深い用語である「世帯主」の現状について触れたいと思います。あらためて用語の定義を確認しましょう。

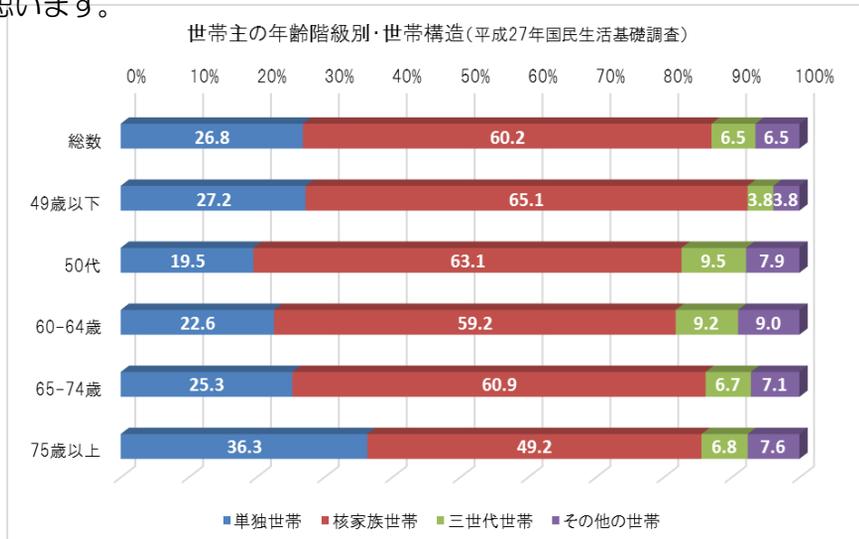
- ・「世帯」とは、住居及び生計を共にする者の集まり又は独立して住居を維持し、若しくは独立して生計を営む単身者をいう。
- ・「世帯主」とは、年齢や所得にかかわらず、世帯の中心となって物事をとりはからう者として世帯側から申告された者をいう。
（厚生労働省国民生活基礎調査 用語の説明より）

○世帯主の年齢階級別世帯数 構成比

世帯主が65歳以上の世帯は41%、60歳以上で半数超えの51%、50歳以上となると68%に及びます。「65歳以上の者のいる世帯」が全世界帯に占める割合は約47%であることに鑑みても「世帯の中心となって物事をとりはかる者」として申告されています。

○世帯主の年齢階級別世帯構造 構成比

次に「世帯構造」を下グラフでみて下さい。「核家族世帯」には「夫婦のみ」「夫婦と未婚の子のみ」、「ひとり親と未婚の子のみ」で構成する世帯が含まれます。「単独世帯」は一人だけの世帯です。世帯主50代の世帯では核家族が63.1% 単独世帯19.5%。世帯主65-74歳では核家族の比率が減り単独世帯が25.3%と増え、その比率は75歳以上で36.3%と3分の一を超えます。ちなみに「核家族」を実数でとらえると総数30,316千世帯に対して世帯主50代世帯は5,238千世帯、同65-74歳世帯は6,583千世帯。比率は減るものの総世帯数が多い分、数は増えます。高齢者の単独世帯に社会の目はいきがちですが、核家族からも目が離せません。そして世帯主60歳以降の核家族世帯においては「夫婦のみの世帯」が多数派を形成することもあり「夫婦」間の意識の現況に注目しながら、以下「次世代高齢者調査」結果を紹介していきたいと思います。



資料出所：厚生労働省「平成27年国民生活基礎調査」

第1-52表 世帯数、世帯構造×世帯主の年齢階級別 を元に構成比を算出



●毎日の家事は女性まかせ。男性は週数回のゴミだし、買物。

まず、次世代シニア（51～60歳）と現在形シニア（66～75歳）それぞれの「家事をする頻度」をみていきましょう。ちなみに調査対象者の有配偶者率は次世代シニア男性97%・女性87%、現在形シニア男性96%・女性68%となっています。つまり男性の場合、ほとんどは妻帯者という調査対象となります。また、有職率は次世代シニア男性98%・女性77%、現在形シニア男性53%・女性30%です。

①（ほぼ）毎日実施率

自分でする家事の頻度（ほぼ）毎日									
	料理 炊事	衣服の洗濯	掃除 清掃	家の中の 片付け	食料・日用 品の買物	ごみだし	庭・家周り の手入れ	ペットの 世話	
男・51～60歳	4.0	6.0	1.0	1.0	4.0	6.0	4.0	10.0	
66～75歳	10.0	8.0	6.0	6.0	8.0	10.0	7.0	12.0	
女・51～60歳	93.0	83.0	32.0	31.0	39.0	19.0	7.0	36.0	
66～75歳	93.0	63.0	48.0	37.0	30.0	29.0	25.0	25.0	

n 性・年齢別各100 単位：%

男性では、いずれの家事も現在形シニアの実施率が次世代シニアをやや上回るものの、ほとんどの人がほぼ毎日という頻度ではいずれの家事も行っていません。それに対して女性では「料理・炊事」はほとんどの人が、「衣類の洗濯」も半数以上の人々が次世代、現在形シニアを問わず行っています。30%以上の実施率のものは青色で示していますが「掃除・清掃」「家の中の片付け」「買物」などが該当します。

②週1回以上実施率
(週1～毎日の合計)

自分でする家事の頻度 週1回程度+週2・3回+週4・5回+（ほぼ）毎日									
	料理 炊事	衣服の洗濯	掃除 清掃	家の中の 片付け	食料・日用 品の買物	ごみだし	庭・家周り の手入れ	ペットの 世話	
男・51～60歳	35.0	32.0	36.0	47.0	67.0	57.0	28.0	27.0	
66～75歳	30.0	30.0	53.0	48.0	73.0	69.0	48.0	19.0	
女・51～60歳	100.0	100.0	99.0	96.0	100.0	98.0	50.0	39.0	
66～75歳	99.0	100.0	100.0	89.0	97.0	94.0	71.0	26.0	

n 性・年齢別各100 単位：%

「庭・家周りの手入れ」「ペットの世話」以外は、女性のほぼ全員が実施、男性の場合、各層共通で半数を超えるのは「買物」「ごみだし」、現在形シニア男性で「掃除・清掃」が加わります。しかし「料理・炊事」「衣服の洗濯」は次世代、現在形シニア共通で3割台の実施に留まります。

③好きな家事

好きな家事									
	料理 炊事	衣服の洗濯	掃除 清掃	家の中の 片付け	食料・日用 品の買物	ごみだし	庭・家周り の手入れ	ペットの 世話	
男・51～60歳	23.0	10.0	12.0	11.0	26.0	9.0	14.0	16.0	
66～75歳	12.0	12.0	11.0	13.0	34.0	15.0	34.0	12.0	
女・51～60歳	35.0	53.0	22.0	24.0	43.0	5.0	11.0	23.0	
66～75歳	50.0	61.0	38.0	30.0	49.0	19.0	28.0	17.0	

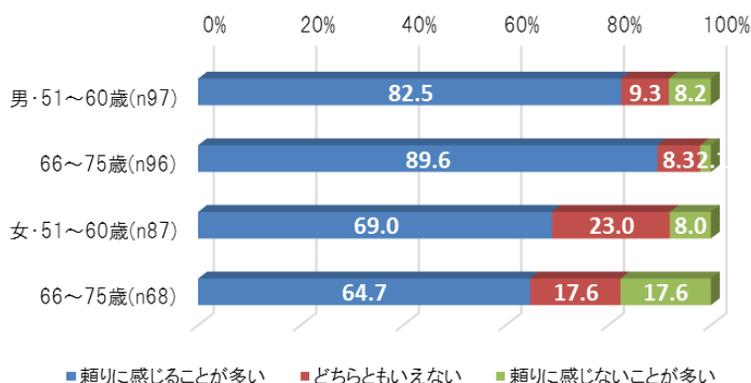
n 性・年齢別各100 単位：%

上の表では「好き」30%以上のところを赤色で示しました。女性同士を比較すると現在形シニアの方がそれぞれの家事の好意率が高い傾向にあります。「衣服の洗濯」を好きな家事に挙げる人が多いのには驚かされます。男性同士の比較では現在形シニアにおいて「買物」「庭・家周りの手入れ」が高くなっています。この二つは見方によっては気分転換や趣味につながる要素も含むのではないのでしょうか。女性の家事行為率と好意率を見比べると「役割だから」「私がやらなければ誰もやらない」の声も聞こえてきそうです。もう一度、最初に示した有配偶者率や有職率と、家事実施率の結果を見比べると、男女共同参画社会の実現にはまだまだ課題があることをうかがわせる結果ではないのでしょうか。

3. 夫婦について（配偶者を頼りに感じているのか）

●夫が妻を頼りにするほどには、妻は夫を頼りに感じていない。

配偶者を頼りに感じる程度
n 配偶者有り 単位：%

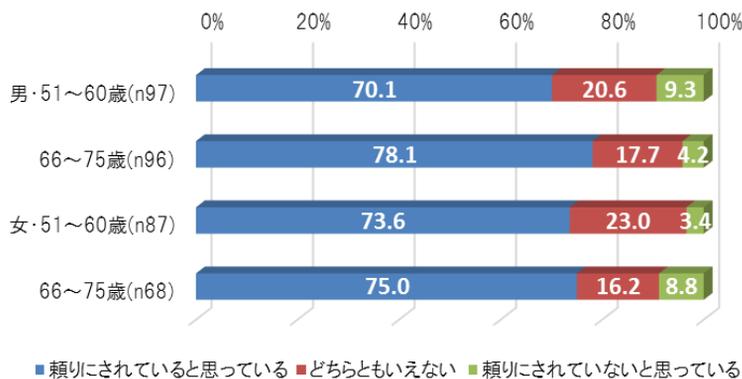


ここでは夫婦の気持ちに迫るために「配偶者有り」の人たちへ、配偶者（夫・妻）を頼りに感じているかを聞きました。世代間の差よりも男女間の差がよく出ています。次世代シニアの男性は約8割が相手を頼りに感じているのに対して女性では約7割にとどまります。現在形シニアにおいてその差はさらに広がり、男性の約9割が相手を頼りに感じるのに対して女性では約65%と3人に1人程度にとどまります。必ずしも配偶者が同じ世代に含まれるわけではないので、大雑把な言い方になりますが「夫が妻を頼りに感じるほどには、妻は夫を頼りに感じていない」という傾向がうかがえます。現在形シニアとなると健康状態の差に要因する場合もあるでしょう。日頃の言動に頼りなさを感じるといった理由も想像できます。

4. 夫婦について（配偶者から頼りにされていると思うか）

●妻を頼りにしている程には妻に頼られてないという夫の自覚。

配偶者から頼りにされていると思うか
n 配偶者有り 単位：%



次に配偶者（夫・妻）から自分は頼りにされているかを聞きました。男性の回答は面白いことに「相手を頼りにしているほどには自分は頼りにされていない」と感じる人の存在を想像させる結果となりました。女性、とりわけ現在形シニア層は逆に「相手を頼りに感じないが自分は頼りにされている」と感じる人の存在をうかがわせます（75.0%-64.7%=10.3%）。ただし半数を大きく上回る多くの夫婦は「頼り、頼られる」関係にあるということでもあり、その点では胸をなでおろす結果ともいえるでしょう。事実はひとつでもぜひ様々な角度から結果をみていただければと思います。

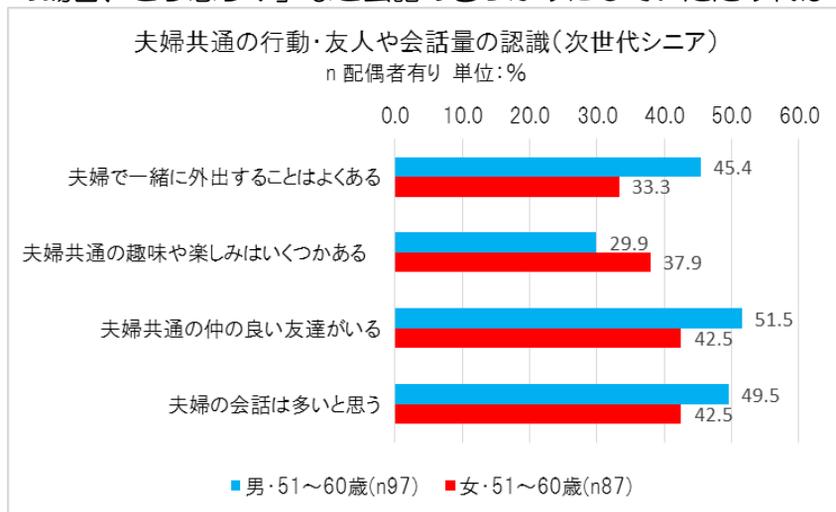


夫婦一緒に外出や会話の多さ。その認識にギャップあり。

次に、夫婦共通の行動・友人や会話量についての認識を「配偶者有り」の人たちに聞いた結果をご紹介します。具体的には「夫婦で一緒に外出する程度」「夫婦共通の趣味や楽しみの有無」「夫婦共通の仲の良い友達の有無」「夫婦の会話は多いか少ないか」の4項目です。次世代シニアの男女差、現在形シニアの男女差をみた上で、年代間の差にも触れたいと思います。

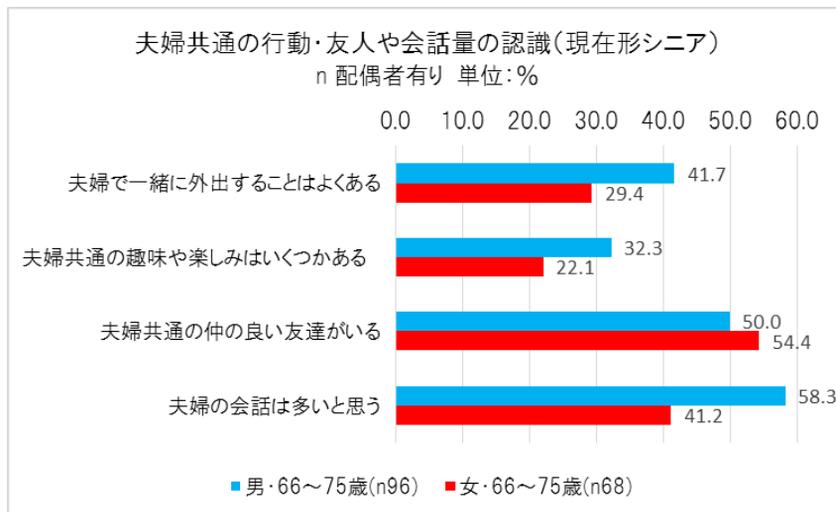
①次世代シニア 男性・女性

「共通の趣味・楽しみ」以外はいずれも男性の方がやや高め、特に「一緒に外出することはよくある」については12.1%男性が高くなっています。この「よくある」や「多い（会話）」などは主観的なものであり「期待する程度（例えば会話の量・質）」により差が生じているのかも知れません。自分ではやっているつもりでも、相手には届いていない、といった行き違いは人生の後半戦に向けチューニングしたい事柄のように感じます。それは、言うは簡単という声が聞こえてきそうですが、配偶者のある方はこのページをみながら「ウチの場合、どう思う？」など会話のきっかけにいただければ幸いです。



②現在形シニア 男性・女性

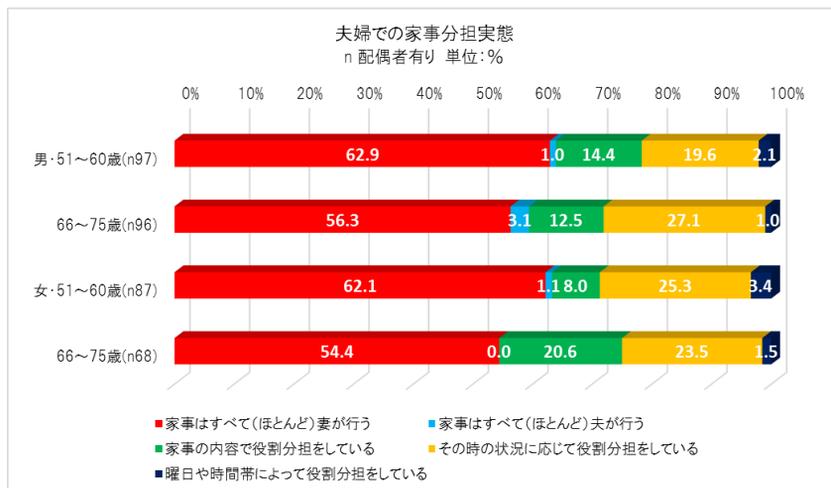
「夫婦共通の友達がいる」は、男女ともに半数以上。それ以外は男性の方が高めで、かつ10%以上の開きをみせています。特に「夫婦の会話は多いと思う」は大きな認識の乖離をうかがわせませす。次世代と現在形を見比べたとき、ここが一番気になるところです（女性は4割、男性は6割が会話は多いと認識）。もちろんこれは認識の差であって、不満が介在する性質のものかはわかりませんが、不満や不和の契機になる可能性もあります。再度のご提案です。気になる方はぜひ、このページを会話のきっかけにしてみてください。



夫婦間の家事分担でも家事はすべて(ほとんど)妻頼み。

6. 夫婦での家事分担実態

2の項では家事行動の実態をみてきましたが、ここでは有配偶者男女の家事分担実態を調べました。質問文は「ご夫婦で家事の分担はしていますか」という内容のものです。各層に共通で「家事は(ほとんど)妻が行う」が半数を超えています。現在形シニアの方がやや少なくなります。男性の働き方の変化なども影響し、「家事の内容で役割分担」したり「そのときの状況に応じて役割分担」をする人が増えるものと思われます。前者は守備範囲を決めてのレギュラーな役割、後者はなにかのとき、困ったときのイレギュラーな対応、ということと理解すると、後者の方がやや多く、妻の家事負担の大きさを結果以上にうかがわせます。



老後のこと、先のこと。話し合う次世代シニア夫婦は約半数。

7. 夫婦で先の生活について話し合う機会

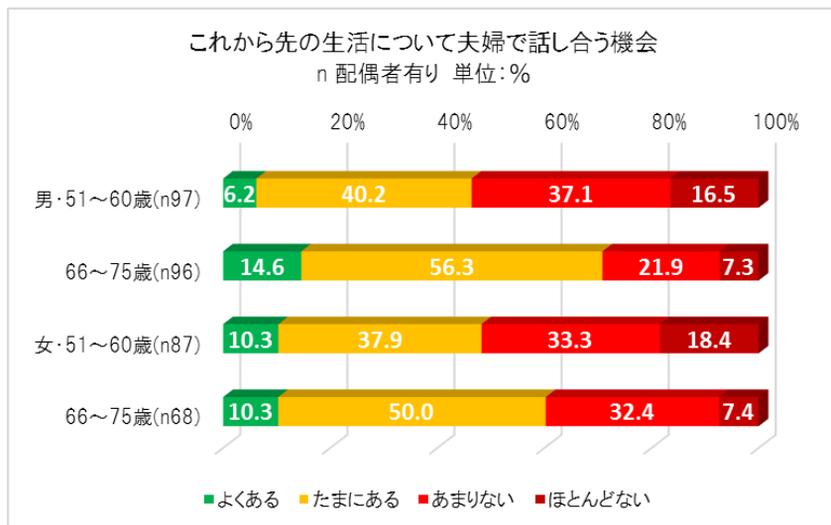
質問文は「老後のこと、これから先の生活についてご夫婦で話し合うことはありますか」です。「ある」(「よくある」+「たまにある」)率をみていくと、

次世代シニア男性46.4%・同女性48.2%、現在形シニア男性70.9%・同女性60.3%です。

現在形シニアの年代となると残りの人生、平均余命で考えれば決して多い年月ではありません。

終活準備もリアルさを増します。そんなことも反映してか、先のことを話し合う機会は増えるようです。

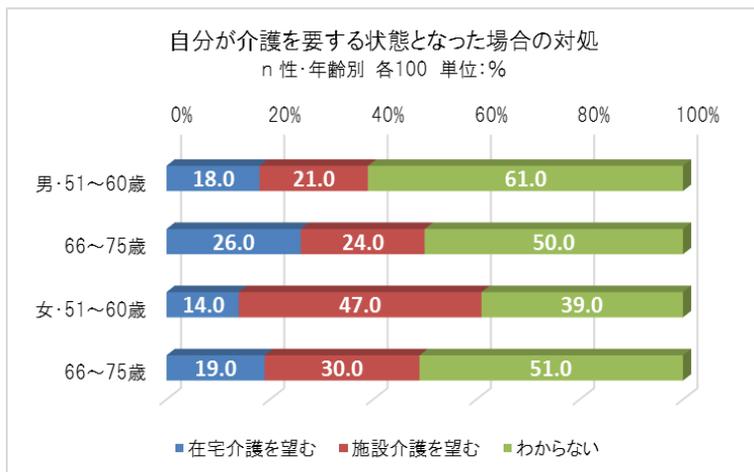
次世代シニアの場合は忙しさや、話し合いの先送り、といったことも半数弱にとどまっている要因かもしれません。しかし、突然訪れる家族の介護への対応、必ずやってくる定年後の生計など、少しずつでも先々のことを話し合っておくことが将来不安に対処する第一歩といえるでしょう。話し合うことで現実に触れ、不安が大きくなったとしても、対策を講じ将来に備えるそれは第一歩となるでしょう。



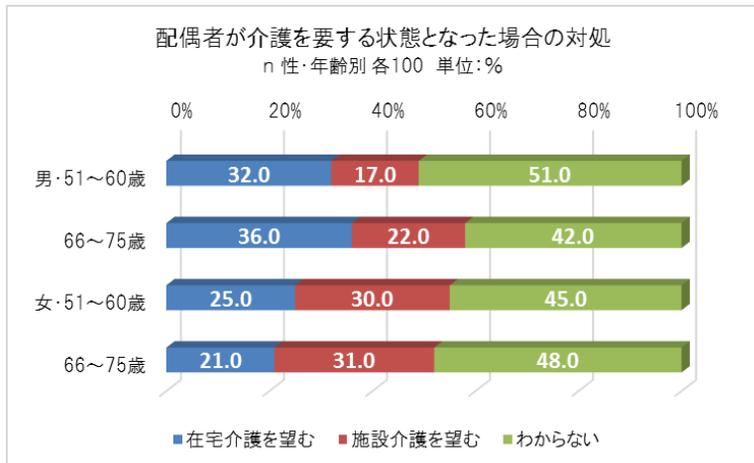
8. 自分や家族が介護を要する状態になった場合の対処

在宅か施設介護か、わからない。でも対処の準備は怠らず。

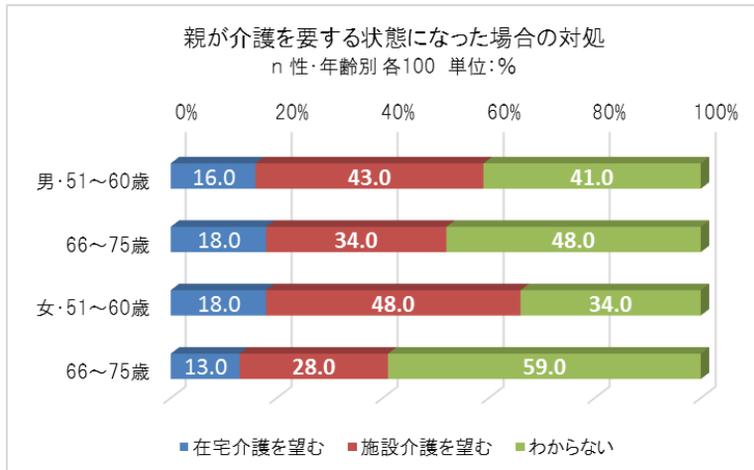
①自分が介護を要するようになったら



②配偶者が介護を要するようになったら



③親が介護を要するようになったら



自分自身や家族が、施設介護か在宅介護かの選択を要する程度の介護状態になった場合どのように対処したいと考えているかを、自分、配偶者、親それぞれについて聞いてみました。選択肢は在宅介護を望む、施設介護を望む、わからない、の三択です。全体に「わからない」の多さが目立ちます。これには、考えたことがない、症状や程度により選び方が変わる、などの理由が想像できますが無理もないところでしょう。

まず①「自分」の場合について男性を比べると次世代シニアで特に「わからない」が多く、在宅か施設かという点ではどちらもどちらの年代も同率に近い数値を示しています。女性の場合、年代に関わらず男性より「施設介護を望む」人が多いようです。特に次世代シニアにおいては47%と約半数の人が施設介護を望んでいます。この理由を推測するに50代という年代からは、親の介護問題が身近にありその負担が女性にかかりやすいなどの傾向が心理面で施設介護に向かわせている、夫を含め在宅介護を安心して頼める人が思い浮かばない、施設の方が何かと安心という心理が働いているかもしれません。男性の場合は家の方が安心であったり経済的なことが気になるなどが考えられます。

②配偶者の場合も女性は「施設介護」志向が強く、男性の場合は年代に関わらず自分の場合以上に在宅介護を望む傾向が強くなります。介護離職も辞さないという覚悟があるのか訪問介護サービスを利用しようと考えているのか、気持ち先行か、知りたいところです。

③親の場合は、男女とも施設介護を希望する人が増えます。ここでの、どちらともいえないという答えの理由は、すでに両親が他界されている場合、他の家族が面倒をみているという場合、自分の親が義理の親かによって選択が変わる場合、経済面の負担を誰かするかといった場合などの、それぞれの事情をうかがわせます。

厚労省のデータでも年齢階層別要介護認定者率は70代前半の一桁台から70代後半以降二桁台となり上昇していきます。次世代シニアの親世代は介護に直面する年代であり、すでに切実な現実となっている方々も多いはずで、気にかけていなかった人も元気なうちに家族と話し合うなど準備が必要です。

9. 家族の現在の悩みや心配事

家族の悩みや心配事は、やっぱり健康・病気と子供の将来。

家族の現在の悩みや心配事(MA) n 500		
全体		
51歳～75歳男性・女性		
1	配偶者の健康状態や病気の状況	36
2	家族を支える自分自身の健康状態や病気	30
3	親・兄弟姉妹の健康状態や病気の状況	29
4	自分の世帯の収入のこと	27
5	未婚の子供の結婚のこと	22
6	子供の健康状態や病気の状況	16
7	子供の仕事のこと	15
8	子供の家庭のこと	11
9	子供の教育・養育のこと	10
10	親・兄弟姉妹が要介護状態にあること	9

色分け	割合
赤	50%以上
オレンジ	40%台
黄緑	30%台
緑	20%台
青	10%台

家族の現在の悩みや心配事(MA)				
男性				
51歳～60歳		66歳～75歳		
1	親・兄弟姉妹の健康状態や病気の状況	40	配偶者の健康状態や病気の状況	46
2	配偶者の健康状態や病気の状況	32	家族を支える自分自身の健康状態や病気	33
3	家族を支える自分自身の健康状態や病気	27	自分の世帯の収入のこと	25
4	子供の教育・養育のこと	27	子供の健康状態や病気の状況	16
5	自分の世帯の収入のこと	25	未婚の子供の結婚のこと	16
6	親が一人住まい	16	子供の家庭のこと	15
7	子供の仕事のこと	14	親・兄弟姉妹の健康状態や病気の状況	13
8	子供の健康状態や病気の状況	13	子供の仕事のこと	13
9	親・兄弟姉妹が要介護状態にあること	11	子供世帯の収入のこと	8
10	未婚の子供の結婚のこと	11	自分からの遺産相続問題	8
年齢別 n=各100 単位:%				
家族の現在の悩みや心配事(MA)				
女性				
51歳～60歳		66歳～75歳		
1	親・兄弟姉妹の健康状態や病気の状況	49	配偶者の健康状態や病気の状況	34
2	配偶者の健康状態や病気の状況	34	家族を支える自分自身の健康状態や病気	28
3	自分の世帯の収入のこと	33	未婚の子供の結婚のこと	22
4	家族を支える自分自身の健康状態や病気	30	子供の家庭のこと	21
5	未婚の子供の結婚のこと	29	自分の世帯の収入のこと	19
6	配偶者の仕事のこと	22	子供の健康状態や病気の状況	15
7	子供の健康状態や病気の状況	19	親・兄弟姉妹の健康状態や病気の状況	14
8	子供の仕事のこと	18	子供の仕事のこと	10
9	子供の教育・養育のこと	15	自分が一人住まい(家族から離れて)	9
10	親・兄弟姉妹が要介護状態にあること	14	配偶者との人間関係・子供世帯の収入	6
(次点)配偶者との人間関係		12		
年齢別 n=各100 単位:%				

家族のことについて現在の悩みや心配事にはどのようなものがあるか、21項目の選択肢を提示した上で該当するものをいくつでも選んでもらいました。上にあるのが、その上位ランキング表です。数値は%、10%ごとに色分けしています。50%以上の人に共通して選ばれた悩みや心配事はありませんでした。水色の枠は性・年齢階層別にみたとき最も高いスコアとなった属性の回答を示しています。

まず51歳から75歳までの男女全体の結果をみましょう。1位から3位までは自分を含む家族の健康状態や病気のこと、4位が世帯収入、5位から9位までが、子供に関わることとなりました。

次に男性です。配偶者の健康・病気は共通して上位、51～60歳の次世代シニアは親などの健康・病気や親が一人住まいであること、子供の教育・養育に悩みなどが特徴です。親などの介護も見逃せません。女性の次世代シニアも同様の傾向ですが、親未婚の子供の結婚や世帯収入について男性よりもやや高い傾向が見受けられます。下位ではありますが女性は両世代とも「配偶者との人間関係」が悩みとして顔をのぞかせている点は気になるところです。

結びに。

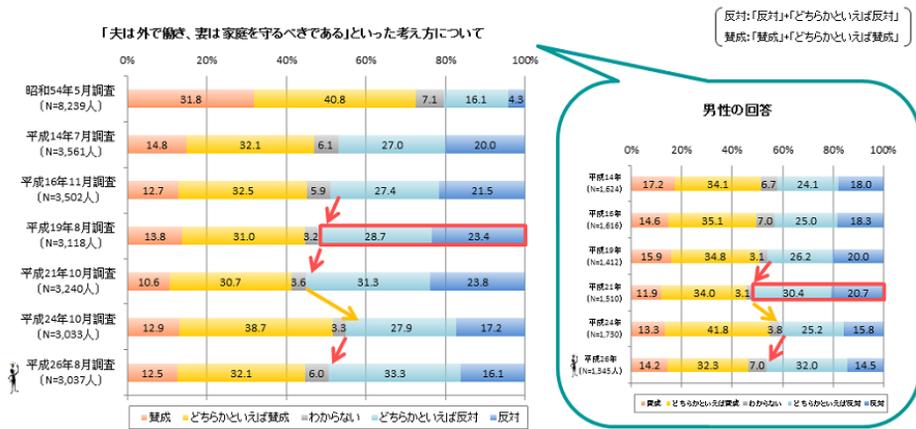
以上、ハイレブ研究所「次世代高齢者調査」の家族にまつわる調査結果を主にご紹介してきました。「家事」を含めた夫婦や家族のこれからの関係において、男性は意識と行動の転換を求められているのではないのでしょうか。調査対象者の多数は有配偶者でした。働く有配偶女性も多く存在しました。しかし男性の多くは家事は妻任せという昔ながらの状態が浮き彫りになりました。もちろん考え方は様々です。

内閣府男女共同参画局のホームページにある「女性の活躍推進に関する世論調査」(H26内閣府)の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方に関する賛否の調査結果をみても賛成反対は拮抗しています(私自身は賛成派の多さを意外に感じました)。この調査は高齢者に限ったものではなく、また「家庭を守る」という概念は、家事より多くのものを含みますので一概に比較できません。しかし共通する心の有り様を感じたので、参考までに取り上げてみました。皆さんはどうお感じでしょうか。

(参考) 内閣府男女共同参画局ホームページより

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方

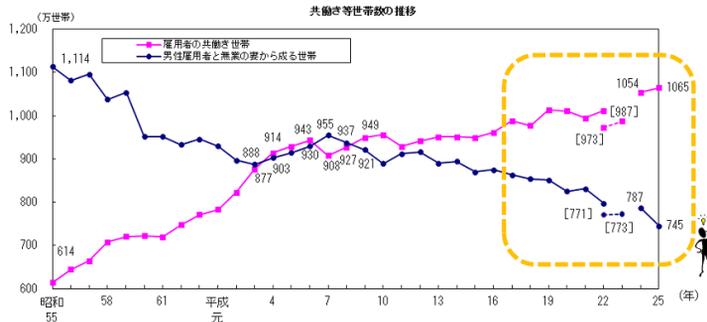
- ▶ 男女全体では、平成19年調査で「反対」が5割を超えましたが、平成24年調査では「賛成」が上回りました。平成26年調査では「反対」が増加し、過半数となりました。
- ▶ 男性は、平成21年調査で「反対」が賛成を上回りましたが、平成24年調査では再び「賛成」が上回りました。平成26年調査では同数となっています。



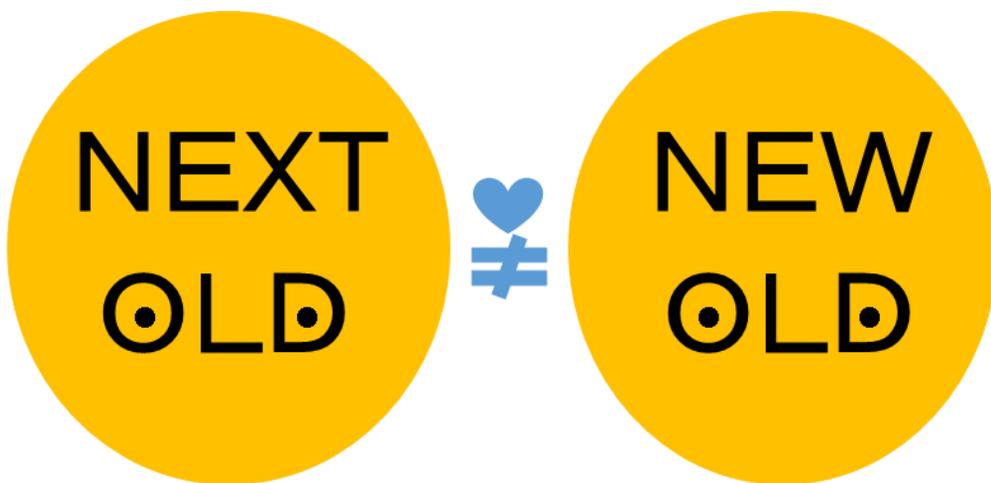
「女性の活躍推進に関する世論調査」(H26内閣府)より作成

仕事の担い手、家庭の担い手の変化

- ▶ 共働き世帯は、増加傾向にあります。
- ▶ 平成9年、「共働き世帯」の数は共働きではない世帯を上回り、その差は大きくなっています。



(備考) 1. 昭和66年から平成18年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月、ただし、昭和66年から67年は各年3月)、14年以降は総務庁「労働力調査(詳細集計)」(各年4月)より作成。
 2. 「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
 3. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、労働力調査結果集計上で、妻が専業主婦(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
 4. 平成22年及び23年の【】内の数値は、若手県、宮崎県及び福島県を除く全国の結果。



Copyright©2017 Research Institute for High-Life

連載第六回予定

「人づきあい」のこれから(仮称)。

公益財団法人ハイレイフ研究所